

クリスマスのおはなし

絵 ● 林本 幸造 文 ● 谷 真介



くりすますのおはなし

絵 ■ 林本 幸道 文 ■ 谷 真介



文研パブリック

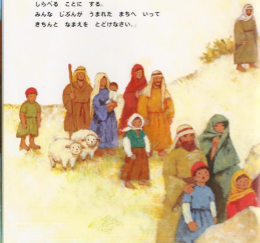


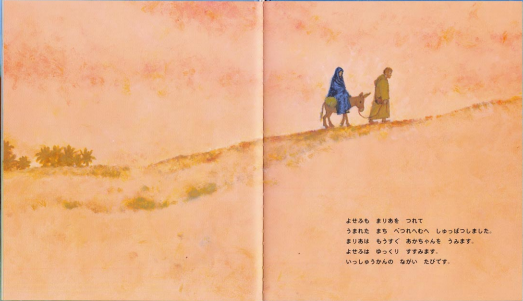
むかし 昔のやの くにに
まりあといふ ころの うつくしい
むずめが いました。
まりあは もうすぐ よせみの およめさん。

ある ひの ことです。
まりあの ところに てんしが やって きて
かみさまの ことばを つたえました。
「おめでとう まりあ。
あなたに あかちゃんが うまれますよ。
なまえを いえずと つけなさい。
その こは せかいじゅうの ひとたちが
まって いる かみさまの みこですよ。」



そのころ おうさまの めいれいが できました。
「この くんに なんにんの ひとが いるか
しらべる ことに する。
みんな じぶんが うまれた まちへ 行って
きちんと なまえを とどけなさい。」





よせもち まりあを つれて
うまれた まち べつれへむへ しゅっぱつしました。
まりあは もうすぐ あかちゃんを うみます。
よせもちは じっくり すずみます。
いっしょうかんの ながい たびです。

やっと ベつれへむに つきました。
けれども やどやは だこも まんいん。
とまる ところが ありません。
「どんな へやでも かまいません。
つまの まりあに こどもが うまれるのです。」
「あそこの うまごやなら つかって いいよ。」
やどやの じゆじんが いいました。

